

## 令和4年度第2回海津市総合教育会議議事録

1 日 時 令和4年7月19日（火）午後4時から午後5時10分

2 場 所 海津市役所 東館 4階 4-2会議室

3 出席者の氏名

市長	横川 真澄
教育長	服部 公彦
教育長職務代理者	伊藤 亮一
教育委員	大津 由佳
教育委員	曾根 理仁
教育委員	伊藤 嘉保

4 調査、説明等のために出席した者の氏名

総務部長	寺村 典久
企画財政課長	山崎 賢二
総務課長	伊藤 聡
教育委員会事務局長	大橋 隆幸
教育総務課長兼学校給食センター所長兼 学校統合推進室長	後藤 政樹
学校教育課長兼教育研究所長	後藤 秀樹
社会教育課長兼歴史民俗資料館長兼図書館長	徳永 宗哲
スポーツ課長	米山 一雄

書 記：教育総務課係長	山田 佐智子
-------------	--------

5 傍聴者

なし

6 議 題

- (1) 土日等休日の部活動地域移行について
- (2) 市内小中学校のいじめと不登校の実態について

7 その他

- (1) 「国民文化祭」「全国障害者芸術文化祭」について

発言者	発言内容
教育総務課長兼 学校給食センター 一所长兼学校統 合推進室長	<p>それでは、ただいまより、令和4年度第2回総合教育会議を始めさせていただきます。なお、この会議は、市長と教育委員会の意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して、本市の教育行政に取り組むために開催するものでございます。よろしくお願いいたします。それでは、はじめに、市長よりごあいさつを申し上げます。</p>
横川市長	<p>本日は、第2回総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様には、大変ご多用の中、ご出席をいただきまして感謝申し上げます。日頃は、市の教育行政のみならず、市政各般にわたりご理解ご協力をいただいておりますことを重ねてお礼を申し上げます。</p> <p>また、この度は、曾根理仁委員には、ご留任をいただき、そして、新たに、伊藤嘉保委員にご就任をいただきました。先ほど、事務局からも説明がありましており、総合教育会議は、市長部局と教育委員会が市の教育の課題、そして、目指すべき姿を共有した上で、私と委員の皆様と意見交換をさせていただき、今後の教育行政に生かしていく場所でございます。委員の皆様には、それぞれのご経験を踏まえながら様々な角度から、本市の教育に対するご意見、ご提案をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>全ての挨拶の冒頭で、私が触れさせていただいておりますのが、安倍晋三元内閣総理大臣の事でございます。7月8日に凶弾に倒れ、多くの国民が、悲しみと憤りを持ってこの訃報を知ったところでございます。長きに渡り国民に尽くされ、そして、憲政史上、最長となる総理大臣在任期間が記録されました。私としても、ただ残念でならないところでございます。日本の外交力の低下というところは、もう避けられない偉大なリーダーでございました。また、時代のリーダーへと受け継がれるべき知見が、一瞬にして失われてしまったということが、まさに、国家的な損失ではないかと思っております。安倍元総理の生前の数々のご功績に感謝申し上げるとともに、心から哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。</p> <p>そして、教育の話題でございますが、今日の岐阜新聞の一面に、「小中学生、10年で100万人減」というヘッドラインがございました。小・中学校の児童生徒数は全国で100万人、県におきましては、この10年で2万5,000人が減少したという記事でございます。増減率にいたしますと、全国平均で9.4%減、県内では13.4%の減だそ</p>

発言者	発言内容
	<p>うです。海津市においては、県内の平均を大きく上回る26.1%の減、県内の42の自治体から見ますとワースト10の減少率です。県内の小学校もこの10年間で25校減りました。本市におきましても令和6年4月に海津町地域の5校の統合の準備を進めているところでございます。やはり、その背景とは、何と云っても少子化と過疎化ということでございます。ご承知の通り、2020年の国勢調査の結果を踏まえまして、この4月から旧平田町地域が、県内の平野部としては初めて、過疎地域に指定されました。海津市全体の人口減少率も非常に高く、次の2025年の国勢調査では、市の全域の過疎地域指定が、もう避けられない見通しであるところでございます。20代、30代の転出が非常に多く、都市部への転出だけでなく、ごく近隣の自治体への転出も非常に多いというところに、強い危機感を有しているところでございます。</p> <p>本日の総合教育会議では、休日部活動の地域移行、そして小中学校におけるいじめと不登校ということを議題として、皆様方からご意見をいただき、その他にも教育全般についてもお話を伺いたいと思っております。海津市の教育が、特色と魅力ある、子育て世代に選ばれる教育となるよう、活発なご意見をお願い申し上げまして、本日、わたくしの冒頭のあいさつとさせていただきます。本日は、よろしく申し上げます。</p>
教育総務課長兼 学校給食センター 一所長兼学校統 合推進室長	<p>本日の出席者につきましては、資料の表紙の裏面に付けさせて頂いております。この名簿をもって紹介に代えさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、議題に移らせていただきます。これより先の進行は、市長に申し上げます。なお、本日の会議は、午後5時に終了させていただく予定であります。</p>
横川市長	<p>土日等休日の部活動地域移行について事務局より説明をお願いします。</p>
スポーツ課長	<p>&lt;資料により説明&gt;</p>
横川市長	<p>ただ今、資料の説明がありましたが、これについてご意見やご質問等がありましたらお願いします。</p>
伊藤亮一委員	<p>中学校地域クラブが、これからスタートしていく訳ですが、クラブへの補助金が90万円分ぐらいだと聞いております。そうすると、ほとんど指導者の謝礼で使用されてしまうということらしいです。その謝礼は、1人1,500円ぐらいだそうです。そうすると、これから、この</p>

発言者	発言内容
	<p>クラブをよりよいものにしていくとなると、優秀な指導者を確保することが大事だと思います。そういう指導者がおられれば、クラブ加入率も向上してくるのではないかと思います。やはり、指導者の謝礼をもう少しアップしていくということが大事ではないかと思います。</p> <p>1, 500円では、本当にボランティアのようで、土曜日、日曜日ということもあるので、やはり、優秀な指導者を確保しようと思うとそれなりに、謝礼というのを準備しないと、クラブを継続できないと思います。ぜひ、来年度に向けて財政状況大変厳しい折でございますが、中学生が本当にクラブに入って活発に活動するという事は、これも子育て支援の一環ではないかなと思いますので、ご検討をお願いします。</p>
横川市長	<p>その点については、来年度の当初予算に向けて、私の方から指示をしております。子どもの活動に関するもの、そして、子育て支援に関するものについては、必ず増額していくと。これは、はっきり申し上げます。この地域クラブに関する予算も、今年度の当初予算は、おっしゃる通り96万円でございます。それだけの謝金しか計上できておりませんが、来年度に向けては、しっかりとした予算をつけたいと思っております。事務局の運営費も、今、ほぼボランティアで地域スポーツクラブにお願いしておりますが、事務経費も含めしっかりと体制を整えていけるように、予算を増額していこうと思っております。適正な謝礼金額がいくらかなのかというところは言及できませんが、しっかりと検討し、来年度の当初予算を計上していきたいと思っております。</p>
スポーツ課長	<p>ご提言ありがとうございます。やはり優秀な指導者ということになりますと、それなりの費用もかかってきます。その辺のところを研究し、また、運営組織における自主財源の確保におきましても、厳しいものがありますので、そちらも教育委員会として、予算要望をしていきたいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。</p>
伊藤嘉保委員	<p>関連して、指導者の質という観点でぜひお願いしたいのが、やはり中学生を指導するという事で、教育的な配慮のできる人材を確保ということが絶対に必要だと思います。極端に勝利至上主義に走ったり、あるいは、指導が目的ではなく子ども達に接近してくるとか、そういったことを何とか阻止しなくてははいけない。ぜひ、人材を採用する段階では、丁寧な人選をいただきたいと思っております。ただ、人材がないという厳しい部分も重々承知しておりますが、やはり子ども達の健全育成に繋</p>

発言者	発言内容
	<p>がるような移行をしていただきたい。</p> <p>もう一点、当然指導者資格というものが定められていると思いますが、先日、県スポーツ協会の講習に行きましたら、地域部活動の指導者の研修も兼ねてということで、非常に熱心に研修を行っておられました。そういった研修を経るとか、教育委員会と指導者のベクトル合わせを丁寧にやっていただけるとよいと思っております。</p>
<p>大津委員</p>	<p>私は、保護者からの意見を一番よく聞く立場だと思っております。教育現場の働き方改革ということで、保護者からは、最初、先生達から見捨てられたという不安な声もありましたが、きちんと説明していただいていることによって、地域で子ども達を育てようという、全国的な流れでありますけれども、保護者の方も受け入れてくださるようになってきたと思います。地域クラブで、同じように専門的な指導を受けられるのであれば、それに見合った謝礼を出していかないといけないと思いますし、また、人材確保や、指導者の指導もしていきながら、持続可能なシステムになった方がよいと思います。また、海津市外のクラブサークルに参加させる保護者の方もおられますが、海津市内にいろいろな選択肢があれば、海津で僕たち私たちが育てられたってということにも繋がると思うので、そういう面でも、子ども達の選択肢が増えるといいなと思います。</p>
<p>服部教育長</p>	<p>今、大津委員からご意見いただきましたが、教員が見捨てることは、全くありません。休日にコーチ登録をして、コーチとして積極的に関わらせて欲しいという教員もおりますので、ご安心ください。特に、若手の教員が、これからこの地域クラブのコーチとして頑張っていってくれると思います。もう一点、保護者の方の意見ですが、月々1,000円、保険料が1,000円、年間おおよそ1万3,000円かかってくると思いますが、お金がかかるなら土日の参加はやめようかと思っている子どもがいたとするなら、これは平等性に欠けるのではないかと、経済格差ができるのではないかと、ご心配になるお声も聞きました。私からお約束はできませんが、いろんな形で市として補助していけるとよいのではないかと考えております。補助する基準が必要になると思いますが、この立場にありながら思っているところです。</p>
<p>横川市長</p>	<p>今、教育長が言われるように、経済的な事情で参加できないということがあれば、非常に残念なことです。何とか、そういったところも配慮</p>

発言者	発言内容
	<p>した予算が計上できればいいと思っております。そして、市長に就任して初めての議会答弁がこの地域移行の答弁でした。たくさんの選択肢の中から子どもが自分に合った、そして、やりたい種目を見つけてスポーツ活動ができる環境をしっかりと作っていきたいと、答弁で申しました。就任前から学校の地域を越えた、この部活動というもの、スポーツ活動ができるというような状況を作りたいと公約の中にも掲げております。皆さんの声を、反映できるようにと思っております。</p>
曾根委員	<p>ちょっと先の話になりますが、私の経験として、地域クラブという組織が出来ます。それに対して、市から補助が出来ますが、その団体の指導というのは、スポーツ課が窓口になるのですか。</p>
スポーツ課長	<p>新たに、この地域クラブという組織を立ち上げますので、その運営をしていくのが、「スマイルクラブこん平田」と「南濃スポーツクラブ」が携わっていくこととなります。実際の運営主体は、その二つのクラブが合同で運営していく中学校の地域クラブとなります。そちらの方の監査をスポーツ課がやっていくことになろうかと思っております。</p>
横川市長	<p>よろしいでしょうか。それでは次の議題に移らせていただきたいと思えます。市内小中学校のいじめと不登校の実態についてということで、事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育課長兼 教育研究所長	<p>&lt;資料により説明&gt;</p>
横川市長	<p>何か、ご意見ございますでしょうか。</p>
大津委員	<p>まず、いじめのことについてですが、私たち、教育委員が、学校訪問に行きますと、各学校でいじめを見逃さないようにアンケートや教育相談などできちんと対応していただいているとお聞きします。先生たちの働き方改革と言われてはいますが、ここには、時間をかけていただきたいと思っております。</p> <p>それから、不登校についてですが、本当に不登校になる子は、いろいろな原因があります。不登校イコールいじめということではないですし、本当に一人一人全く違う問題を抱えていると思っております。一人一人に対して、今の現状でどのような対応が必要かということで、学校に来られる子であれば、担任の先生が状況を見てくれるように頑張って指導してくださるし、別教室の登校でもOKだよというふうにも声をかけてい</p>

発言者	発言内容
	<p>ただいています。</p> <p>さらに、念願の駒野フレンドリールームが出来た事は、すごく嬉しく思っています。8名の子が利用しているということは、とてもよかったなと思っています。まだ、勉強には、気が向かない子もいますが、勉強したい子もいるということで、タブレットを使ってオンラインで授業を受けている子もいると聞きます。そういうことにも対応していただけたということをごくありがたいと思っています。</p> <p>統合した後の空き校舎の利用として、そこにフレンドリールームと、OCT文化センターにある「にこにこ相談室」と言って専門の心理士さんがいらっしゃいますが、そういった相談ができる場所と一体となった場所があれば、環境は整っているの、良いのではないかなと思います。</p> <p>それから、この義務教育期間は、先生方や、市の方にも見ていただけますが、義務教育後、私は、自殺対策のゲートキーパーの研修でもお聞きしましたが、海津市は、若者の自殺率が高いということです。数字だけで見ることではないと思いますが、自殺が、いじめや不登校と直結しないと思いますが、情報を社会福祉課と共有して、民生委員さんや地域の方に共有されて、家庭全体を見守っていただきたいということも併せて思います。</p>
横川市長	<p>本当にそう思います。120人しか年間子どもが生まれてこない中で、いじめを受けて学校へ行けなくなるというようなことは、悲しすぎます。海津市にとって本当に子ども一人一人が宝です。きちんとした教育を受けられなくなり、そして、さらに、引きこもってしまって、市を支える立場になる子たちが、支えられるようになってしまうということは、本当に不幸なことです。不登校のその後のことも含めて、しっかりとした連携はできているというふうに私は認識しております。</p>
学校教育課長兼教育研究所長	<p>ワンストップで保護者、子どもの困り感に寄り添ってくれるような施設、それが教育支援センターという形になると思いますが、今、現在OCT文化センターに、社会教育課の会計年度任用職員による相談業務を行っている先生が保護者の子育て相談業務を行っています。フレンドリールームでは、子どもの困り感に寄り添った適応指導教室をやっていて、今、場所は、バラバラなので、そういうのも一つのところでそういう施設を作ることができれば、お母さんは、そちら、子どもは、こちらというような事やまた、自由に地域の方やボランティアサークルの方々</p>

発言者	発言内容
	<p>が来て、何か催し物が出来たり、地域全体でそういう困り感を持った子ども達を支えることもできるという事は、非常にこれから目指す方向だと思っておりますので、先ほどのご意見を参考にできたらと思っております。</p>
横川市長	<p>その他ありませんか。</p>
伊藤亮一委員	<p>不登校のところで、中1ギャップも非常に心配するところですが、やはり、令和6年度の統合ギャップ、これは本当に心配です。高須小以外の4校は、修学旅行を一緒に行っており、多少の交流はあると思いますが、これから令和6年度の統合に向けて、5校の密接な交流ができて、そういう統合ギャップが起こらないような交流を進めていただきたいと思えます。</p> <p>もう一点、フレンドリールームのことですが、高須のフレンドリールームの場所が、問題ではないのかと思えます。今、大津委員さんが言われたように、OCT文化センターに「にこにこ相談室」がありますが、そのようなところをうまく拡充できたらいいと思えます。それと、フレンドリールームが、海津地区と南濃地区だけにありますが、やはり平田地域にも必要ではないのかと思えます。ぜひ、フレンドリールームの拡充をお願いしたいです。</p>
横川市長	<p>私は、不登校の子たちが、子ども達の中で関係性を学ぶということが大切なので、それぞれ地域において開設するというよりは、駒野フレンドリールームに来てもらって、ある程度的人数の中で、学んでもらった方がいいと思っております。やはり、そういったニーズがどうなのかというところから検討した方が良くと思っております。</p>
学校教育課長兼 教育研究所長	<p>今、駒野フレンドルームに平田地区の子も来ています。不登校傾向の子は平田地区では少ない状況です。平田地区でどこの施設がいいか、そして、人件費の問題もありますので、それらも踏まえて検討しなければならないと考えております。</p>
大津委員	<p>子ども達としたら、やはり、自分で行けるので近い方がいいです。保護者がよく送迎していますが、子どもが自分で通ってもいいならば、自分で行って帰ってくると、自分なりに達成感があると思えますし、保護者の方は、自分の時間を犠牲にして送迎している可能性があるということも思えます。</p>

発言者	発言内容
伊藤亮一委員	子ども達の傾向は、どうですか。
学校教育課長兼 教育研究所長	現在、多くて、重なる 때가 2、3 人ぐらいで、基本的には、1 人で時間を過ごしてるパターンが多いです。
服部教育長	<p>駒野フレンドリールームの今年度の実績で、来年度の方向が見えてくるのではないかと思います。今年 8 人の日々の学習の様子を記録した報告を読みますと、やはり、この子たちが求めているものは、繋がりなんです。そこに行くと先生と話ができるとか、こういう活動ができるといった目的がはっきりしていることが、分かってきます。平田にフレンドリールームを作る場合、やはり場所と、そこにどういう人を置くかとか、どういう物を用意しておくか、図書があったり、そこでスポーツができたり、いろいろそういう条件がないと、目的が生まれてこないと思いますので、今年の駒野フレンドリールームの実績をしっかりと検証し、その上で、来年度以降どういう方向にこのフレンドリールームを拡充していくか、考えていきたいと思っております。ただ、今年、本当にこの 8 人、たった 8 人ですけど、少しでも家から出て、自分の居場所を見つけてくれたことに価値があるなと思っております。</p>
横川市長	今、教育長が言われたように、ただ単にスペースを作ればいいというものではなく、しっかりとした機能のものでないといけないと思っております。しっかりとその辺も考えて検討して参りたいと思っております。
伊藤嘉保委員	<p>いじめの認知については、非常に積極的にやっていたという事で、いじめの件数が多いという事が、決して悪い方向に考える必要はなく、積極的に認知していてももっともっと認知できるかなという気持ちで取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>不登校の中には、人間関係の不調でというような子がいた時に、不登校重大事態という事が大きく報道されているところですが、人間関係の不調を訴えて、いじめかなと最後に言われると、これは重大事態になってしまいます。人間関係の不調で 30 日欠席者は、いじめ重大事態の 2 号案件ということで、学校に調査組織を立ち上げるとか、あるいは、教育委員会に調査組織を立ち上げるというような対応しなければいけなくなります。海津市は常設されてるということで、教育委員会がいつでも動かせるような準備ができていますが、小中学校で慎重になっていらっしゃるなと思っております。大きなことになる前に早めに動けば、報道も必</p>

発言者	発言内容
	要ないですし、遅れたがために新聞報道ということが結構多くなっているの、ぜひその辺、積極的に攻めていただくことが必要だと思います。
曾根委員	保護者が相談できるところと、フレンドリールームが同じ場所にあればよいと思います。お互いの担当者が情報交換できるような場所が、海津地区にあればよいかと思います。
学校教育課長兼 教育研究所長	現在は、「にこにこ相談室」の担当者も月に1回報告に教育委員会の方に来られるので、そのときの情報は共有化をしながら保護者さんの思いとかも聞いておりますので、そういう部分での連携を密にしながら、連携を取っていきたいと考えています。
横川市長	では、次に移ります。その他といたしまして、「国民文化祭」「全国障害者芸術文化祭」につきまして事務局から説明をお願いします。
社会教育課長兼 歴史民俗資料館 長兼図書館長	<資料により説明>
横川市長	海津市で、どのようなことをやると決まった訳ではございません。ある程度の方向性が示され、お示しできるような段階で、また、改めてご意見をいただきたいと思っておりますので、今日はこの報告でとどめたいと思います。 今日予定をしておりました議題につきましては全て終了したところでございます。
教育総務課長兼 学校給食センタ 一所長兼学校統 合推進室長	本日は1時間という限られた時間ではありましたが、委員の活発なご意見ありがとうございました。以上を持ちまして本日の会議を閉じさせていただきます。

閉会 午後5時10分